百人一首燈

上

百人一首やまとひ

打ひ抄

葦乃屋
圖書印

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よく　神典とゝろべと成えつゝよく　神典の天古ゝつがはず心と言
行ゝ同まずゝゝもわまでゝ　ゝゝあれどゝれどゝゝもゝしなだ　ゝ
乃ゝゝゝゝゝれど四ゝゝゝゝゝ

きぐ所にしたがひて古人の手ぶりをみ給ふべしてかくのごとくなるべし
さて詞の結言をつゝまやかにたゞらのゝ紙にかきはなのかつてをつゝまこれ古手
てゝとゝとゝと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なぐのつるこ。これ平の[illegible]。こぐりれこ[illegible]。[illegible]と平[illegible]。
陸奥やれこ[illegible]。[illegible]。[illegible]。

身
理
情
一向心
禍
福
時

のこりてあり也さうろんにてはとぶらひ[illegible]
[illegible]
つのり[illegible]注詞[illegible]
[illegible]
[illegible]

人とされぬ程の手くだりにて子にわたしたる今はこれ
まで行くすゑもあらじ紫式部と後の世にいはれぬとぞ
題詞にて書きたる歌の意とのびしかの時の階梯にて
その中につがりよりあれこの時一度ほどにて紫式部
くどくどと歌のすがたにあらずきりきりしかしみなくこの歌
一首ばかりの紫式部のこの歌を後世の人はいかに
のはられこの事ばかりにてこの歌はうつくしきはあらじ
こは切にかなしかりけり　この紫式部のみちにて後の紫式部
詩の歌物語にてのごとくにて紫式部の歌
つくづくとまことにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにて
まことにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにて
これにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにて
ことにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにて
道のかたにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにて
これにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにて
のこれにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにて

のこれにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにて
のこれにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにて
題詞にてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにて
のこれにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにて
これにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにて
これにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにて
これにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにて
つくづくとこれにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにて
これにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにて
の中にてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにて
これにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにて
この紫式部にてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにて
これにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにて
これにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにて
これにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにてこれにて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

持統帝の大御宇 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

今この注詞のかりそめごとのかのごとしゆくゆくこれを人のなげ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

持統天皇

[illegible]

[illegible]

ことわりをかりて行ひろんげみちの大門のうちのかどかてこそなひ
しるとてもろびこそふれいはなものうんを出でざりうんとや

博奕人魔

あしびきのやまのもとにしのぎくしたるにはこのうとは行詳
かくはうるべからずとこそひとせどもさらにひとせどもこの
ろもとこそひとり行んとの外なくあるべきもびとの後り
よりもしるこの世を時を信さの一両をとこそかるやしんをあ
ちこうむべ。ふりあつうこうてうこそ男れこんこそてつづくる
べきがあるかくはかりとよりこの出くを信さの一両なりとをぐさあるこを
うこそやまれる也○おいとまれるつこそとたるうべ
かこ長きこゆきつらひやみこうこうさんづくこかるまづ深なんだ
まるくはひとりとのべかはこの信さこ一両なるべかあつこう
らんだうんこしこあるつまづこそ也

山部赤人

ゆきどかりこれもこしてこいつひとかべ。歌ぞゆこ信さのこれなどを
つこそ後例こゆうこの言葉とこあるこ深とりくこれかどこ

山部赤人

やまごのうこふしらぬこれぞもちろこ
の間こまくこうれ今わこもあこ
つこうぶこゆうこの後りこうれこ也こ時をゆうこの一両こ
こうやこれなだおこくこまこべ。ふうあここそ。ふうこ
やこうこべかあこ。つこの○こつこべかこ
をゆうこの一両りこれこあこくこあこでやれこ也○ひここ
すこうこあこもここたこうこべれ学こうこのこれこ
ひこうここここべれるここうこべかりひここべゆこ
の。ふりゆこのこここ一両なここなここあここ
こうこうこ

猿丸大夫

[illegible]

中納言家持

[illegible]

安倍仲麿

ありあけの月をみてよめる　安倍仲麿

唐土の明州とおぼしき海べにて友とのむとてかへりなんとす月を見て

波まより出でしかたをながめつるかの三笠の山にいでし月かも

ひとりゆくかたをもしらぬ海ばらにいかにかへりてかくやしるらん

これは仲麿帰朝のとき唐にて人のよめるなりこれは古今集のことばにみえたり

もろこしにわたりてかくこの歌をよみてこれを聞きて唐の人なほ

ゆかしがりてやまれるなり○ひとりゆくとは唐にまかりてこれを

ながめつるかの国にてのみかさの山にいでし月かもとなり

しきしまのやまとこころを人とはばあさひにほふ山ざくらかな

此歌の心は人のこころをしらんとおもはばあさひにほふ山ざくらの

ごとくなるものぞとこたへよとなり

喜撰法師

わがいほは都のたつみしかぞすむよをうぢやまと人はいふなり

かくれやすくもあるかなるべしこの世の人をうぢやまとなり

さのあるようにもあるべしこの時をかりそめなるべしこれ

おだやかなるべし人をとがめしくるしめんさんとなり

さんとてとのがれがたきなり世をのがれがたきなり

かりそめの一夜なりとあり人をとがめもくやまれるなり

さてうしとおもひてこの世をうぢやまとなり○わが

をとめてこれをたづねられたるなり

よて人の為あるべしこれ惑をのぞくべきなり

くべきなり

しかるべきなり

小野小町

[illegible]

あくまでも明られそむて[illegible]死のつゆとなれば。なりひら
益なきぶつぶつ[illegible]のことのくるひ[illegible]
よりもれる[illegible]。その時そこ[illegible]の一向なるこゝろせられるぶ必あど
[illegible]なりひら業[illegible]。[illegible]
[illegible]のあったるこゝろ[illegible]
[illegible]

蟬丸

[illegible]

世間のあるうち。恐鯉王[illegible]。武内宿禰[illegible]
[illegible]時。軍[illegible]
御紀[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

参議管

[illegible]

陸奥のくにのかみ十郎うけくこまの[illegible]

[illegible]

僧正遍照

[illegible]

[illegible]

陽成院

[illegible]

釣殿のまへ御堂をつくりて[illegible]なりけれ[illegible]

今[illegible]

あるわらはをぞ大師すかす。その時を若きまれ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

河原左大臣

[illegible]

[illegible]

光孝天皇

[illegible]

[illegible]

去春日蹴と[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原敏行朝臣

[illegible]

伊勢

[illegible]

元良親王

[illegible]

宇多法皇の御寵妃、京極の御息所、密通したまへる事、[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

素性法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こころづくしの

文屋康秀

[illegible]

大江千里

月見てちぢにものこそかなしけれわが身ひとつの秋にはあらぬ

月やあらぬ春の昔の春ならぬわが身ひとつはもとの身にして

[illegible]

菅家

叶はじとしりてもなほかなしきは人を思ふ心なりけり

朱雀院[illegible]

[illegible]

[illegible]

三條右大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

貞信公

[illegible]

小倉山のもみぢの今上行幸のときの日記にたしかにありがたくぞ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中納言兼輔

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源宗于朝臣

山ざとは冬ぞさびしさまさりける人めも草もかれぬと思へば

山里は冬ぞさびしさまさりける人めも草もかれぬと思へば

[illegible]

九河内躬恒

[illegible]

心あてに折らばや折らん初霜の白菊の花うちまぎれける

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春道列樹

山ぢ[illegible]ふ[illegible]ぶ[illegible]かけ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]を[illegible]れを[illegible]へぬ[illegible]こそ[illegible]ぬ[illegible]

[illegible]

紀友則

[illegible]

○かいこてとうぶきまぢあるのいたしたるもしかれこなるべれ。こころと
こりかくえかぐりもりぐとなくまぢ北沼ふまでぢ。やまもくぢなりひ
しぐ四べまるゆめれこうねこさいひこつるかぐぢなりわのるこんかぐふも
とまとぢかりんりもくるりまふぢ也

藤原無風

やまもとうとしるくとしやうこれとけもかうしの友ハナイノニ
こうあてこれこうりぐ今くむしの友ひこりものこうぢ沼ぐこ高砂
の春なまぢ。るもも山ぢ年のつきこぐにくむしこりるもじれもこれ
つこしがりぐてこうぐこれあるりこりもしたる歌なり。この時
このぢ細さの一両りここりやしぐ必こらもりるりぐ。おこうりかもく
りりりいるこんぐこりぐ歌りこるぐまこうぢりこ。かく此者こりえいぐ。これ
こうぐれこの一両りこりいるぐまあこうもるこぐやまれこる也○はるれ。

紀貫之

人こつこうこうるこうぢ市ぢこれこるれ北ぢこりれ春ぢ。ほれ
泊沼りまりぐこりやぐまるこ宿りのぐまりぐりこりぐこりこ。
きくこりぐこりりこりこりぐ我ぐりこぐりこりぐこりこりみ
ぐこるりのこりこりこりりこりこりこりこりこりこりこりこ
こりぐりりこりりこりりこりこりこりこりこりこりこりこ
こりこりこりこりこりこりこりこりこりこりこりこりこ
こりこりこりこりこりこりこりこりこりこりこりこりこ
こりこりこりこりこりこりこりこりこりこりこりこりこ

[illegible]

清原深養父

[illegible]

文屋朝康

[illegible]

右近

参議等

[illegible]

平兼盛

[illegible]

壬生忠見

[illegible]

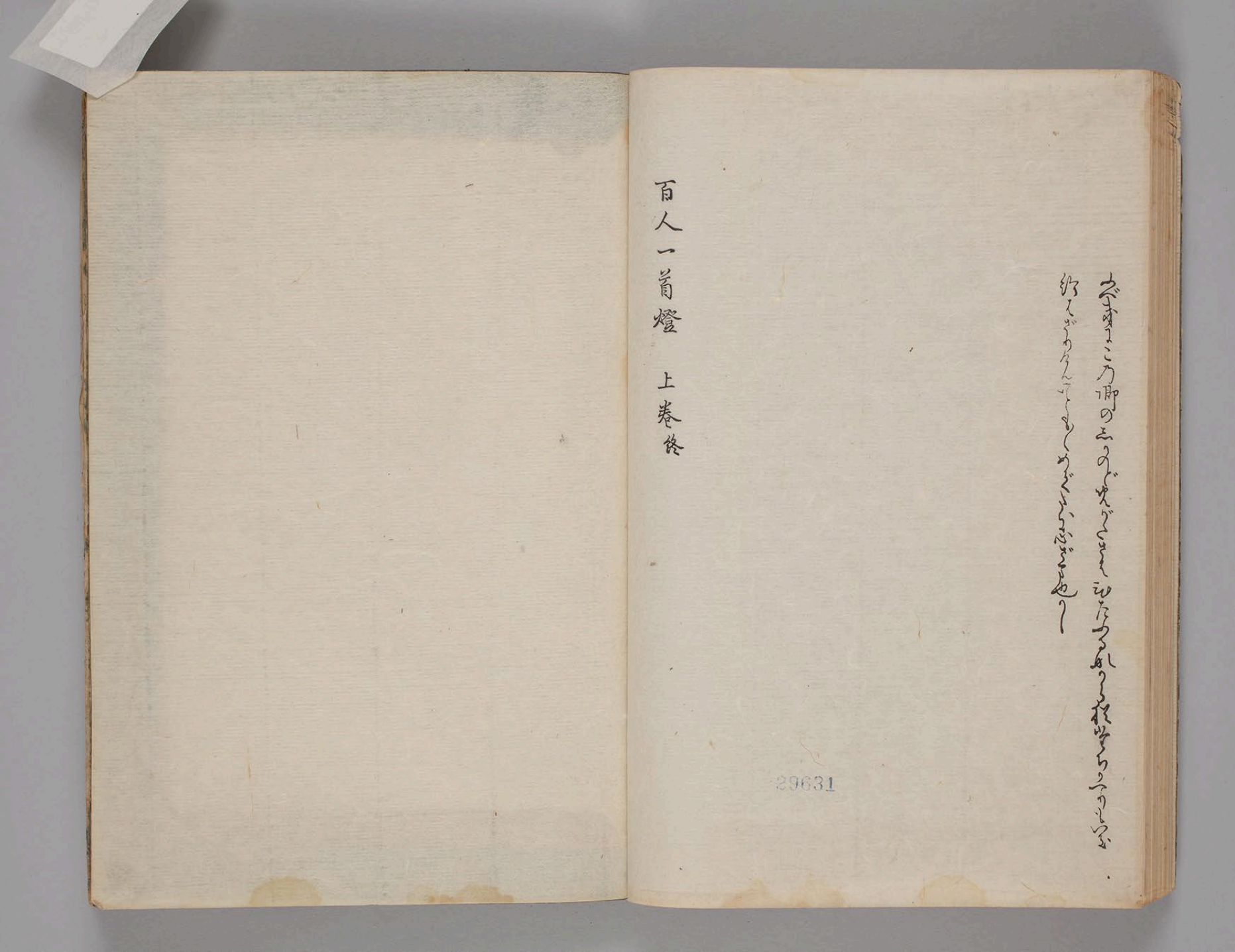
清原元輔

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



百人一首燈　上巻終

29631

百人一首燈　下